

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告 令和8年3月20日～令和8年8月6日

活動名	天霧山・二反地川・瀬戸内海・弘田川・さぬき富士・五岳山ビューポイント創出活動(心のオアシス編)	
活動団体名	舟岡山未来プロジェクト活動組織(環境保全隊、景観保全活動隊、舟岡山・弘田川ラグーン研究会) 共創隊 憩いの舞台創出特別チーム&薬師堂 SAKAN・Project(県立多度津高校生ものづくり実践チーム)	
活動目的	・57年前の舟岡山頂上(香川県 仲多度郡 多度津町 山階 岡)からの360度パノラマを取り戻すこと。 ・生物多様性に果たす里山の二次的な自然環境の役割を考え、里山の手入れを継承するシステムを考え、里地の方々のシンボル舟岡山の復元、こどもたちの森林体験の場(学びの場)の創出。(内容充実)	
活動内容	・舟岡山の環境保全隊+応援者による集団活動は月1～2回の割で協定域の最後の斜面藪域の保全活動をしています。ようやく、立ち枯れ材・掛かり木の処理ができ、木漏れ日が藪林の床域に届くようになりました。景観保全活動隊により、自然発生したカブト虫の採取体験活動をはじめて実施し、「生物調査目標に当地の舟岡山だけでなく、近郊の穏やかな里山にも登頂してください。」と啓蒙しています。 ・倒壊薬師堂跡地を憩いの場に育てるために薬師堂 SAKAN・Project が起ちあがりました。地元高校生の技術資産の発揮の場に、アイカ工業(株)のモニター企画、(株)濱崎組の技能継承課題への挑戦の支援を受けて夏季に鎌倉期からの、この地を見つめる座像が蘇りました。(次年度の山の日の旬にはビューポイント創出活動の節目となります。) ・風雨による倒木処理の緊急対応・予防対応が、新たな助け合いの絆を生み、前へと進む力になります。地元自治会・別の組織体とともに、災害対応に自助・共助として取り組み始めたところです。 ・遊休田に緑肥・景観保全を兼ね、ひまわり元気作戦として、多文化共生活動隊により昨年同様にひまわりの種を蒔きましたが、今季は猛暑に惨敗しました。(気候変動を感じています。) ・計画し、汗をかきながら実践し、経験をつみながらの景観づくりの感動が、関係者の記憶に残りつつ、各隊のプレイヤーの皆様の縁・想いが、舟岡山未来プロジェクト全隊行動の次の展開への礎となります。	
活動写真		
写真説明	初活動 里山の昆虫との触れ合い(自然の中へ) カブト虫♂♀参加児童 get! トンボ・蝶・玉虫・カメ・カニ	夏季薬師堂 SAKAN Project 青年技術資産の実践中 次年度は「山の日」記念開催県、山波の見晴らし台を創ろう
活動効果	・農山村のポテンシャルの維持の活動者は高齢化していますが、個人で出来るアクションが生まれています。協定域の環境保全活動地は一巡しましたので、各活動隊のモニタリングを踏まえ、エリアを絞っての内容充実、連携組織の見直しも含め、次年度からの3年計画の姿が浮かび始めました。	
今後の展望	①倒壊薬師堂跡地を登頂される方々の憩いの場とする花壇の作成・花の植栽を通じて、関係人口者のつながりを強化します。次年度の「山の日」記念として、倒壊薬師堂跡地に CLT(直行集成板)による小さな見晴らし舞台を構築して舟岡山の一区画の薬師堂跡地の保有する過去・現在・未来とともに、郷土を読み解く力を伝えたいと思います。(仮称:舟岡山の未来窓 ⇐ 穏やかにゆっくりと図面化中です。) ②今年度の環境保全隊の目標の一つである協定域内の小っちゃな周遊冒険道を継続して繋げます。 ③企業家マインドの醸成と未来世代との連帯・育成について、地域の自然の治癒力も含めて検討します。	